

エダマメ新時代到来!

「豊熟の味わい」シリーズ第一弾!

あじふか

「味風香」(SB1019)の特性と栽培の要点

雪印種苗株式会社  
園芸作物研究グループ  
野菜研究チーム  
主任 大橋 真信

1

## 1.はじめに

エダマメは「好きな酒のつまみ」や「子供の好きな野菜」などのランキングでは常に上位となっており、大人から子供まで広く親しまれています。特に近年は「だだちゃ豆」に代表される茶豆種のように、味への嗜好が強くなっており、品種に対しても食味の良さが求められています。

弊社では長年にわたり、栽培しやすさや収量性、収穫物の見た目や食味で生産者の皆様に納得して頂ける品種の開発を続けてきました。そして嗜好が多様化する今、「通」の皆様にも納得頂ける食味を目指して育成した新シリーズ(「**豊熟の味わい**」)を発表します。その第1弾となる『味風香』(試作系統名「SB1019」)は、とても強い甘みと独特の旨み、香りを有し、かつ着莢性に優れて栽培しやすく収量性も高い早生品種です。今回は本品種の特性と栽培のポイントについてご紹介いたしますので栽培の参考としていただければ幸いです。



▲写真『味風香』の草姿

## 2.『味風香』の特徴

～甘い!旨い!香りがいい!～

『味風香』の最大の特徴はその味です。弊社では食味の良い早生品種として「サッポロミドリ」を発表してから40年以上ご愛顧頂いておりますが、『味風香』は「サッポロミドリ」の食味をさらにグレードアップすることを目標として育成しました。

まず特徴的なのは茹であがりの「香りと噛んだ瞬間の「甘さ」で、口に中にフルーティーな甘さと芳香が広がります。さらに、噛むほどに甘さだけではなく独特の「旨み」が増し、熱々でも冷やした状態でもおいしく食べることができます。普通に茹でて子供のおやつに、剥き実にして食材として使えばデザート料理にも利用の幅が広がります。また、その濃厚な味わいはお酒のお供としてならビールだけではなくハイボールや辛口のシャンパン、白ワインなどの相性もばっちりです。



▲写真 茹であがりきれいな『味風香』

～着莢良好!抜群の収量性～

『味風香』のもう1つの大きな特徴は着莢性です。早生品種は生育期間が短いため一般には株が小振りで莢数もあまり多くありません。『味風香』は早生品種としては草勢が強く着莢が安定しているため、低温期のトンネル栽培など環境が厳しい時期でも、「サッポロミドリ」などの早生品種と比べて着莢良好です。

また莢の大きさについても早生品種の中では大莢で、実入りが良く太りが良好なので、莢重が重く収量性に優れています。

## 3.『味風香』の栽培特性

### 1) 熟期

「サッポロミドリ」とほぼ同熟期で、播種後80日(一般地標準)程度で収穫できる早生品種です。低温期の栽培では「サッポロミドリ」よりも若干収穫までに日数を要しますが、温暖になるにつれて早生化し、ほぼ「サッポロミドリ」並となります。

### 2) 草姿

早生品種としては草丈が高く、やや大葉で生育は旺盛です。倒伏にも比較的強く、分枝の折損も少ないため栽培が容易です。また節間も適度に伸び、上位節から下位節までまんべんなく着莢するため、枝着き出荷でのバランスが良好で、もぎ栽培では脱莢機の作業性に優れています。

### 3) 莢の形質

「サッポロミドリ」よりも一回り大きく「莢音」よりやや小振りな程度の大莢で、3粒莢の割合が比較的高く外観に優れます。莢の色はやや淡めですが鮮やかな緑色で色ムラがなく茹であがりはきれいで



▲写真 「味風香」の莢の形状

### 4) 収量性

前述のように『味風香』は着莢性に極めて優れており、収量性は良好です。また大莢で3粒莢の割合が高く、かつ1粒莢や不稔莢などの規格外の莢が少ないため製品の歩留まりが高く、収穫後の調整作業も楽に行うことができます。

## 4. 適応地域と播種適期

早出し向けのハウス、トンネルによる移植栽培からマルチ、露地での直播栽培まで、全国の幅広い栽培に適します(下記作型表参照)。ただし極端な早播きでは生育や着莢が不良となることがあるため、播種期を厳守してください。

### 栽培作型

●○: 播種期 ▲: 定植期 ■: 収穫期

地域	作型	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
北海道 東北 高冷地	マルチ 露地				●	○			
	ハウス	●	○	▲					
一般地 暖地	トンネル		●	○	▲				
	マルチ 露地			●	○	▲			

### 「味風香」の特性および収量性

品種名	開花期 (月/日)	生食適期 (月/日)	主莖長 (cm)	節数	分枝数	2粒莢		稔実 莢数 (ヶ/株)	平均 一莢重 (g)	多粒 莢率 (%)	上物 莢率 (%)	規格内 収量 (kg/a)
						莢長 (cm)	莢幅 (cm)					
【平成26年3月19日播種 3月26日定植 千葉研究農場(千葉市):トンネル 3615黒マルチ】												
味風香	5/8	6/11	41.0	9.3	4.0	6.09	1.52	17.5	2.58	25.1	74.0	89.4
サッポロミドリ	5/7	6/12	40.3	8.7	4.0	5.78	1.52	16.6	2.39	25.3	62.5	76.3
莢音	5/7	6/11	23.7	7.0	3.3	6.65	1.58	12.8	2.86	16.4	65.7	68.7
【4月26-30日播種 平成22-26年5ヶ年の平均値 千葉研究農場(千葉市): 9224黒マルチ】												
味風香	6/6	7/8	40.5	10.2	5.6	5.69	1.37	39.7	2.52	31.9	74.5	70.2
サッポロミドリ	6/4	7/9	33.4	8.7	5.0	5.46	1.38	37.4	2.05	28.5	73.2	52.6
莢音	6/2	7/10	29.9	8.3	5.2	6.28	1.42	40.3	2.24	26.2	70.2	62.4
【5月18-20日 平成22-26年5ヶ年の平均値 北海道研究農場(長沼町): 9224露地マルチ】												
味風香	7/12	8/16	49.8	11.8	5.4	5.64	1.38	68.6	2.55	34.1	74.0	88.1
サッポロミドリ	7/9	8/16	37.7	9.9	4.5	5.34	1.41	60.1	2.48	36.2	75.1	76.1

## 5. 栽培の要点

### 1) 肥培管理

『味風香』は早生品種としては草丈が伸びやすい品種のため、「サッポロミドリ」よりもやや元肥は抑え気味にし、生育状況を見ながら葉面散布などで追肥を行う方が良いでしょう。特に肥沃な圃場で肥料を入れ過ぎて窒素過多になると、着莢が不良になり、この場合食味も低下することがあるので注意が必要です。

### 2) 病虫害防除

低温期の栽培では害虫の発生は少ないですが、気温が高くなるにしたがって定期的な防除が必要となります。生育初期にアブラムシが多発すると矮化病やモザイク病などのウイルスを媒介するので注意が必要です。開花期以降は葉や莢を食害するカメムシ類やマメシクイガなどに特に注意します。また湿潤な気候の年に多発するべと病は莢の内部でカビが増殖して食味の低下を招きます。『味風香』はべと病に対して抵抗性がありません

で定期的な防除を心がけてください。

### 3) 適期収穫の徹底

『味風香』はもともと莢色が淡く、収穫適期以降の莢、葉の黄化が早い傾向がありますので、黄化が始まる前に速やかに収穫を行うようにしてください。莢の大部分が8割~9割程度太ったら収穫を開始し、一回の播種について3~4日程度で収穫を終わらせるようにします。見た目上問題がなくても子実が完全に太りきった後は甘みが急激に落ちていきますので、一回の播種面積を小さめにし、早めに収穫を終わらせるように心がけてください。

## 6. おわりに

『味風香』は従来から食味に定評のある「サッポロミドリ」をリニューアルした新品种です。ぜひ一度栽培して、とれたての『味風香』をご賞味いただければ幸いです。なお、弊社では今後も食味を重視した品種の発表を予定しております。どうぞ今後の「豊熟の味わい」シリーズにご期待ください。



▲写真 左から「サッポロミドリ」「莢音」「味風香」